

1枚目は**1915年フサイン＝マクマホン協定** to**アラブ人**

(オスマン帝国支配下のアラブ人を「勝ったらパレスチナに住んでもいいよ!」と味方につける)

2枚目は**1916年サイクス＝ピコ協定** to**フランス・ロシア**

(「オスマン帝国を倒したら、その領土はイギリス・フランス・ロシアで分けちゃおうね!」と約束する)

それはまずいんじゃない、...



3枚目は**1917年バルフォア宣言** to**ユダヤ人**

(ユダヤ人銀行家として大成功したイギリス貴族ロスチャイルド卿に「パレスチナにユダヤ人居住地を作るから、資金援助してね!」と約束する)



やっちゃったね、...



イギリスの委任統治 (植民地)

第一次世界大戦後、パレスチナはイギリスが統治するようになる。もちろん"三枚舌外交"の約束は守れるわけもなかったけど、ユダヤ人はどんどんパレスチナに移住してくる。元々住んでいるアラブ人 (パレスチナ人) も「**ここは俺達の国ができる場所だ!**」と言う。

さらにイギリスの主導で産業開発を行う時に、銀行や事業家が多いユダヤ人の意見を多く取り入れたことにアラブ人は不満を持った。

そんな中、第二次世界大戦が起こり世界中でユダヤ人の虐殺が起こり、ユダヤ人はますますパレスチナの地に国家を建設しようと移住してくるようになる (**シオニズム運動**)

文化や宗教の差も大きいけど、実際戦争を決定づけるのは「**経済**」だったりする。つまり"生きるか死ぬか"の問題に直面した時に、人は戦ってでも生きようと思うんだ。

